第374施設中隊　横田の神輿を5年ぶりに復活

374 CES revives Yokota mikoshi after 5 years

August 7, 2025

By Staff Sgt. Taylor Slater
374th Airlift Wing Public Affairs

8月8日金曜日、東京・福生市で開催される「福生七夕まつり」で、5年ぶりに横田基地の神輿が市内を練り歩く。

神輿は、日本の祭り文化において重要な意味を持ち、神社に祀られる神様を運ぶための乗り物とされている。通常、4本の大きな担ぎ棒で支えられ、20～25人の担ぎ手によって所定のルートを進み、途中で何度か休憩を挟みながら運ばれる。

「神輿は神社の神様を運ぶもので、地域の人々の絆を深め、コミュニティの一体感を高める大切な役割を果たします」と第374施設中隊仕上げ大工の竹内正太郎氏は語る。

2020年以降、福生七夕まつりの中止に伴い、横田基地の神輿は、第730航空機動中隊の旅客ターミナルに保管されていた。2024年にまつりが再開されたものの、神輿の重要部品が紛失していることが判明し、安全面の懸念から横田基地の参加は見送られた。

そして2025年、竹内氏率いる第374施設中隊の数人の職人チームが、神輿の修復作業に着手した。

同中隊の大型修理部門分析官ナタリー・クリ氏は、「神輿の修復は、大工にとって非常に特別な仕事です。「修復を任されるのは、限られた職人だけです」と話した。

竹内氏は、木工歴40年、施設中隊での勤務歴は7年。今回の神輿の修復だけでなく、第374施設中隊の部隊章や、現在航空団司令部前に掲げられている第374空輸航空団の最新エンブレムの制作も手掛けてきた。

「彼は忙しい中でも空兵の手助けを惜しみません。皆が彼を尊敬しています」と第374施設中隊構造見習い、クロエ・ファント上級空兵は言う。

修復作業は今年7月下旬に完了し、竹内氏率いるチームは、第374空輸航空団司令官リチャード・マックエルハニー大佐から公式に表彰された。

しかし、竹内氏自身にとって大きな喜びは、ものづくりそのものにある。

「創造こそ、私の情熱です」と竹内氏。「そして、これが私の夢でした」と語った。

8月8日金曜日の午後、横田基地の各部隊から集まった60名を超えるボランティアが、福生七夕まつりで神輿を担ぎ、福生市内の街を練り歩き、まつり会場を盛り上げる。